
活動目標

《5》障がい者・児の理解と支援

〈住民の声〉

(1)障がい者・児の住みよい地域づくり

- ①障がい者に対するサービスが少ない。
- ②公共施設でも利用できない所がある。
- ③障がい児の交流できる場がない。
- ④身体障害者補助犬法が理解されていない。

(2)障がい者・児の理解と就労場所及び外出先の提供

- ⑤障がい者・児に対する地域の理解がうすい。
- ⑦障がい者の働く場所が少ない。



■ 取り組み方法

障がいをもつということは、健常者に比べて日常生活動作が出来にくくなるということです。

何らかの障がいを持つことは、決して不幸なことではないということを前提において、地域社会が様々な人達で構成されていること、そこからその当事者に対する社会的な支援体制を整備し、障がいを持つ人を理解することで、住みなれた地域で共に生き、共感できる体制づくりを進めます。

〈取り組みの内容〉

(1) 障がい者・児の住みよい地域づくり

- ①障がい者支援サービスを充実する。
- ②ユニバーサルデザインの推進とバリアフリー化を推進する。
- ③障がい者・児との交流と生活を支援する。
- ④身体障害者補助犬法の完全実施に向け地域理解を深める。

(2) 障がい者・児の理解と就労場所及び外出先の提供

- ⑤障がいの有無などを超えた理解を深める。
- ⑥障害者作業所のPRと情報を提供していく。

